

Q6. 情報化施工はどのような効果がありますか？

従来工法のように作業の目安となる丁張りなどの指標を設置する必要がなく、また、それらが無くなったため建設機械操作への支障が回避され、作業効率を向上させます。

また、出来形の検測作業も減らすことができ、施工品質及び生産性を大幅に向上させることができます。

これらのシステムは、高速道路、空港などの大型現場から、駐車場や一般の路盤整形作業など幅広く使用されています。さらに、測位、建設機械追尾に電波やレーザー光を使用しているため、夜間作業においても昼間の作業と同様に高い作業効率を得ることが可能です。

また、電子データを駆使した施工及び管理を行うため、施工プロセスでの情報記録が容易になり、こちらのデータは施設供用後の補修計画にも活用が可能となります。

従来工法（A）と情報化施工（B）の工期比較例

